

第 19 回宮坂英弑記念尖石縄文文化賞

受賞者 西野雅人

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月24日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人計13件である。

候補者の内訳は、30歳代から50歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第19回尖石縄文文化賞の受賞者として、西野雅人氏（千葉県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏は、縄文研究では重要な貝塚の調査を多数手がけ、膨大なデータをまとめ、分析し、縄文時代の生業や食の内容解明を進めてきた。

また、2005年には千葉県内の若手縄文文化研究者の研究組織「千葉縄文研究会」を立ち上げ、その主力メンバーとして活躍している。

さらに、自身が積み重ねてきた研究成果を踏まえて、学史上名高い加曾利貝塚の総括報告書の刊行に尽力し、加曾利貝塚の特別史跡指定に大きく貢献したことも、特筆に値する。

こうした氏の研究活動は、縄文人の行動や社会の解明に取り組み、尖石遺跡の保存と活用に尽力した宮坂英弑の業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿うものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2018年8月24日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第19回受賞者 西野雅人氏